

# 菅康弘教授 略歴

(令和5年8月1日現在)

氏名 菅 康 弘  
生年月日 昭和30年11月3日

## 学 歴

昭和57年3月 京都大学文学部哲学科社会学専攻 卒業  
昭和61年3月 京都大学大学院文学研究科社会学専攻修士課程 修了  
平成元年3月 京都大学大学院文学研究科博士後期課程社会学専攻 研究指導認定退学

## 甲南学園における主な経歴

平成9年4月1日～平成14年3月31日 甲南大学助教授  
平成14年4月1日～現在 同 教授

## 主な役職等

平成15年4月1日～平成16年3月31日 甲南大学文学部社会学科主任  
平成21年4月1日～平成22年3月31日 甲南大学文学部社会学科主任  
平成22年4月1日～平成24年3月31日 甲南大学教務部長  
平成26年4月1日～平成27年3月31日 甲南大学大学院人文科学研究科応用社会学専攻主任  
平成28年3月1日～平成29年3月31日 甲南大学文学部社会学科主任  
令和2年4月1日～令和4年3月31日 甲南大学大学院人文科学研究科応用社会学専攻主任

## 主な委員・会議等

学長辞任請求管理委員会	甲南学園広報編集委員会
教育職員養成課程カリキュラム委員会	甲南大学学生生活支援委員会
教職教育センター運営委員会	甲南大学協定校推薦入学制度に関する委員会
教職課程カリキュラム小委員会	甲南 S-net 推進委員会
高大接続推進企画運営委員会	合同教授会
講堂兼体育館運営委員会	人文科学研究科委員会
広域副専攻センター運営委員会	全学共通教育連絡協議会準備委員会
大学会議員	平生記念荣誉奨学生選考小委員会
大学院委員会	補導協議委員会
入試制度検討委員会	リジョナル荣誉奨学生選考小委員会
ヒトを対象とした研究に関する倫理審査委員会	

## 菅康弘教授 業績一覧

### 論文

- 1 1989年「デュルケーム宗教社会学における〈力〉への視点」『ソシオロジ』第34巻第1号(105号), 3-22頁  
社会学研究会
- 2-a 1992年「コミュニオンの意義と展開—ロバートソン・スミスからデュルケームへ—」『哲学研究』第558号,  
89-106頁 京都哲学会
- 2-b 1993年「コミュニオンの意義と展開(完)—ロバートソン・スミスからデュルケームへ—」『哲学研究』第  
559号, 73-98頁 京都哲学会
- 3 1993年『『ソロー』たち—都市から田舎へ—』『ソシオロジ』第38巻第1号, 63-73頁 社会学研究会
- 4 1993年『『連帯』の軌跡—デュルケームの社会学理論を追って—』『大阪学院大学通信』第24巻第4号, 15-33  
頁 大阪学院大学通信教育部
- 5 1995年「都市社会化とルーラリズム」坂田義教・栗岡幹英編『現代日本社会の変貌—国際化社会の内と外—』  
第6章, 97-120頁 慶應通信(現・慶應義塾大学出版会株式会社)
- 6 1995年「ストレンジャーとネイティブ—『離都向村』をめぐるライフスタイルと問題解決過程への都市社会  
論的アプローチ—」『大阪学院大学人文自然論叢』第31号, 43-60頁 大阪学院大学人文自然学会
- 7 1996年「見いだされぬ〈都市〉—デュルケームの射程—」『社会学史研究』第18号, 63-72頁 日本社会学史  
学会
- 8 1996年「脱都市型社会移動にみる文化的価値の変遷—アメリカと日本—」『大阪学院大学通信』第27巻第5  
号, 67-88頁 大阪学院大学通信教育部
- 9 1998年「交わることと混じること—地域活性化と移り住む者—」間場寿一編『地方文化の社会学』第7章,  
150-175頁 世界思想社
- 10 1999年「脱都市移住者の群像—‘stranger-native interaction’の理解のために—」『甲南大学紀要』文学編109  
号(1998年度), 140-166頁 甲南大学
- 11 2001年「旅の途中—〈移り〉〈住む〉ことの今日」『甲南大学紀要』文学編117号(2000年度), 139-166頁 甲  
南大学
- 12 2001年「遊歩する都市とモデルネの桎梏—再びジッセルの都市へ—」居安正・副田義也・岩崎信彦編『21世紀  
への橋と扉—展開するジッセル社会学』第9章, 173-195頁 世界思想社
- 13 2005年「〈住〉のコントロール, 〈旅〉のコントロール」寶月誠・進藤雄三編『社会的コントロールの現在』,  
316-334頁 世界思想社
- 14 2007年「よそ者であることを〈選択〉する—居住地選択と愛着の位相—」『甲南大学紀要』文学編146号(2006  
年度), 1-20頁 甲南大学
- 15 2009年「『場所』への愛着—語り, 唄う, 固着と乖離—」『甲南大学紀要』文学編156号(2008年度), 87-106  
頁 甲南大学
- 16 2011年「朧な影と執拗な語り—近代日本の〈家族〉の位相—」『甲南大学紀要』文学編161号(2010年度), 99-  
107頁 甲南大学
- 17 2015年「ストレンジャー体験と愛着の位相—はざまにたつことの意味」『異人論とは何か—ストレンジャー  
の時代を生きる—』, 第8章, 195-219頁 ミネルヴァ書房
- 18 2020年「不可視化する『場所』—望郷, 慕情, 日本的‘孤独’—」『甲南大学紀要』文学編170号(2019年度), 75-  
87頁 甲南大学

### 学会発表

- 1 1983年「生駒山系の宗教と社会」関西社会学会第34回大会 京都大学

- 2 1986年『力の体系』としての社会—デュルケーム宗教社会学における力と感情の問題— 関西社会学会第37回大会 同志社大学
- 3 1987年「コンミュニオンの意義と展開」日本社会学会第60回大会 日本大学
- 4 1992年「デュルケームにおけるコンミュニオンの定立」日本社会学史学会関西例会 大阪市立大学
- 5 1995年「生と秩序の空間的位相」日本社会学史学会平成7年度年次大会シンポジウム「ジンメル、デュルケームと現代」 鹿児島経済大学
- 6 1997年『Iターン』移住の群像—時代, 家族, 愛着・漂泊— 関西家族社会学研究会 (KAFS) 甲南大学
- 7 1998年「〈田舎〉をめぐる‘stranger-native interaction’—Iターン移住にみるurbanityとrurality—」日本社会学会第71回大会 関西学院大学
- 8 2012年「ストレンジャー体験と愛着の位相, そして‘離れる’ことの意味」国際日本文化研究センター共同研究会「現代民俗研究方法論の学際的研究」 国際日本文化研究センター

## そ の 他

- 1 1985年「中小の神々」宗教社会学の会編『生駒の神々—現代社会の民俗宗教—』 創元社
- 2 1995年「新たにきたる者, 再びきたる者」『京都新聞』平成7年5月10日朝刊「水曜フォーラム」 京都新聞社
- 3 1995年「新・田舎人—脱都市・田舎移住の社会学—」三木 英・藤本憲一編『社会を視る12の窓』第4章, 41-56頁 学術図書出版
- 4 2000年「交わること 混じること そして新たな舞台へ」東播磨こうのとりの会推進協議会・東播磨県民局「ふるさとを考えるフォーラム」基調講演 兵庫県西脇市マナビータプラザ
- 5 2001年「Iターン定住—〈住〉から〈旅住〉へ—」『農業と経済』2001年6月号, 68-73頁 富民協会
- 6 2005年「ラビリンスの憂鬱—郊外をめぐるオムニバス」『京都大学新聞』2005年2月1日号 京都大学新聞社
- 7 2007年「田舎暮らし—〈住〉を“選択”することの意味とは?」小川伸彦・山泰幸編著『現代文化の社会学入門—テーマと出会う, 問いを深める—』, 59-74頁 ミネルヴァ書房
- 8 2008年「地方都市の肖像—R. S. リンド/H. M. リンド『ミッドルタウン』(1929)」井上俊・伊藤公雄編『都市的世界』(社会学ベーシックス4), 75-84頁 世界思想社
- 9 2017年「微妙な相克—電車内から」『京都大学新聞』2017年6月16日号 京都大学新聞社
- 10 2018年「先生! 都市ってムズ〜イ!」『ソシオロジ』第62巻3号(191号), 69-71頁 社会学研究会